

Ⅱ 「科学する心を育てる」環境の工夫

自分たちの思いを実現するために、子どもたちは考えを出し合って試行錯誤を繰り返し、様々な困難を乗り越えていきます。子どもらしい豊かな発想で「人や自然、ものや出来事」とのかかわりを重ね、科学する心が育まれる様々な体験をしている子どもたちは、どのような環境で遊びや生活を進めているのでしょうか。

事例 遠くの人に声を伝えよう（柏みどり幼稚園 5歳児）P22～23参照

保育者のかかわり

子どもの姿

ポイントになる環境

遊びに夢中になり、時間に集まらないことを問題にするのではなく、「どうしたら伝えられるか？」ということを経験にして、自分たちで問題を解決しようとする姿を見守っている。

「どうして紙コップを糸でつないだだけなのに、声が聞こえるのかなあ？」と一緒に考えながら気付いたことを手ごかりにして、課題に取り組むための話題を深める。

「塩ビ管はそんなには買えないなあ。何か代わりに物考えなくちゃ」と、子どもたちも納得して違う方法を考えるように促す。

送迎バスが通れないから、帰りまでには片付けなければいけないことを知らせる。共有の場であることを意識できるようにする。



自分たちで問題や困難を感じて伝えたり、話し合ったりする様子を見守る。全体で共通になることが必要などころでは、確認になるような援助をする。

あわつ(きっかけ)

「保育室から遠い園庭の隅にある“とりで”にいる友達に、片付けて集まるのが上手く伝わらない」ということについて話し合う。

やってみる

- ・糸電話でやってみる
- ・声のトンネルを作ろう

もしかしたら

- ・声のトンネルは大きい方がいい
- 「紙管にしよう」
- ・曲がる所はどうする？
- 「ホースがいいんじゃない」
- 「塩ビ管とホースでつなぐと壊れにくい。塩ビ管にしよう」
- ・3、4歳児が触って壊れてしまう。
- ・片付けないと園バスが通れない。
- 「地面に埋めちゃえばいいんじゃない」

やっぱり

- ・声が聞こえない。確かめてみよう。
- 「途中に砂が入っている」
- 「太いパイプがいい」

伝える・伝わる

- ・雨が降るよ!?
- 「雨に濡れる所は塩ビ管にしよう」
- ・塩ビ管が足りないよ!
- 「濡れない所は紙管にしよう」

向き合う・わかり合う

- ・広い園庭で、みんな思い思いに“声のトンネル”をつなげている。
- A 児「みんなバラバラ。みんな集まって!」
- B 児「時間がもったいない」
- C 児「いつも A ちゃんが決めて…」
- と不満も出るが、話し合い作業を続ける。

はずむ

生活の中で困っていることなどを自分たちで話し合う場がある。

共通の体験をしている仲間がいる。

遊びに必要な材料を、自由に見つけたり選んだりすることができる。



素材の質や特徴、太さや長さ、硬さなど、違いによる比較や選択ができるような教材がある。

必要な材料を自分たちで探し集めて作ることができる。素材の特徴や種類、在庫などの見通しがもてる。

試行錯誤を重ねることができる時間や場が保障されている。幼児の考えや工夫、技能で扱うことができる。

同じ目的で最後まで一緒にやり遂げようとする仲間がいる。

同じ目的に向かい協働で活動をしていることを、お互いにわかり合っている仲間がいる。

思いを出し合い葛藤しても、自分たちなりによりよい解決をしようとするつながりの友達がいる。